



CPHI Japan 2025 国際医薬品開発展

製薬業界におけるパートナーシップを推進

2025年4月9～11日 東京ビッグサイトで開催

医薬品の研究、開発から製造における国際的なネットワーキングイベントとして開催されている、「CPHI Japan 2025」が、4月9～11日の3日間、東京・有明の東京ビッグサイトで開催される。通算22回目の開催となる今回も、出展企業約800社、来場者も3万人強と昨年を大幅に上回るとみられ、展示面積も含め過去最大の規模になると予想されている。また、昨年の展示会からは、世界的なCPHIのリブランディングに伴い展示方式を大幅にリニューアル。それまで同時開催展としていたアウトソーシングなど5分野を展示ゾーンとして取り込み、参加者や来場者にとって、よりわかりやすくした。

医薬品の開発のみならず、サプライチェーンの構築など様々な課題解決に向けての人や企業のコミュニケーションを促進するバックグラウンドになったといえる。コロナ禍明けから3年目となる今年のCPHI Japan 2025、医薬品産業に関わる企業・人にとって、必見のイベントであることに変わりはない。



Japan

ジャパンライフサイエンスウィーク

LIFE SCIENCE WEEK

バイオ、創薬も重要テーマに



クリストファー・イブ代表取締役社長

「これまで、医薬品原料をメインとした展示会のイメージが強かったCPHI Japanでしたが、リブランディングしたことが奏功。参加企業、来場者が大幅に増加しました。これは、CPHI ワールドワイドなどとの共通項を念頭にしたもので、すべての行事や対応が同一会場内で可能になり、効率的に情報収集や交流が行えるようになりました。また、バイオ分野や新薬開発など、これからの分野にも焦点をあてたものが増えたことも評価されたと思います」と、CPHI Japanの主催社であるインフォーマ マーケッツ ジャパンのクリストファー・イブ代表取締役社長は、リブランディングの成果を強調する。

確かに、昨年の展示ブースゾーンでは、人の流れが絶えることがなく、出展企業のブースでも多くの訪問者への応接に暇なく動いている様子がみとれた。CPHI の特徴は、単に展示を見るだけでなく、出展社と来訪者との交流やコミュニケーション、商談ベースでの対応などビジネスに結びつく活動が盛んなこと。昨年のリブランディングで、それがさらに促進されたようだ。

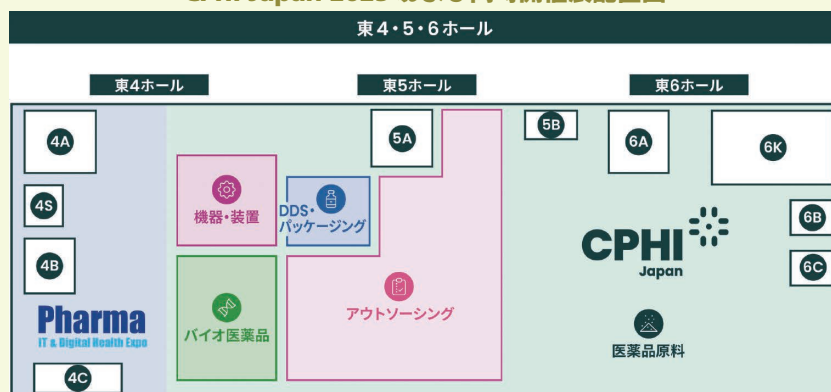
パビリオンの新設・復活も

昨今の医薬品産業にとって、大きな課題の1つは、ジェネリック医薬品を中心とした安定供給問題だったが、それへの対応も徐々に進展。関心の的は、今後に向けられる傾向にある。「目の前の課題解決はもちろんですが、日本発の革新的な新薬を創出することが世界市場における日本の製薬業界のプレゼンスを高める

ことにもなるため、今回のCPHI Japanにおいても新たなパートナーとの提携や創薬イノベーション、新しいモダリティの取り組みを強化している」（イブ社長）という。

同時に、原料や製品のサプライチェーンの構築や強化が課題の1つとしてクローズアップされている。世界第3位の市場規模をもつ我が国の医薬品市場に向けて、アジアはもちろん、欧米の医薬品関連企業からも様々なアプローチがなされている。また、我が国の医薬品関連企業にとって、アジアをはじめ各国の企業などとの連携でサプライチェーンを構築・強化することは今後の課題ともなっている。イブ社長も「60の国・地域からの参加が予定されているCPHIは、この課題解決に向けたヒントや交流・情報交換に有効な場を提供できると考えています」という。本展の特徴の1つでもある海外パビリオンは、従来の中国や韓国、

CPHI Japan 2025 および同時開催展配置図



基調講演・特別講演のスケジュールおよび講演者

講演の種類	講演日	講演場所	時間	表題	講演者
基調講演	4月9日	6K-01	9:15～10:15	ドラッグラグ・ロス解消や医薬品安定供給確保に向けた薬事規制の取組	厚生労働省 医薬局医薬品審査管理課 次世代ワクチン等審査推進室長 浦克彰氏
基調講演	4月10日	6K-07	9:30～11:00	革新的医薬品製造技術と AI・機械学習	(独)医薬品医療機器総合機構 スペシャリスト (品質担当) 松田嘉弘氏
				Factory of the Future の実現に向けた製造 DX の取り組み	AMED 研究班 AI プロジェクトメンバー (武田薬品工業株式会社) 石丸宏氏
				CMC 研究の革新を加速する DX 戦略	日本製薬工業協会 品質委員会 製剤研究部会 デジタルツールの活用・実装プロジェクトテマリーダー (第一三共株式会社) 田邊修一氏
基調講演	4月11日	6K-12	9:30～10:30	中外製薬の創薬・生産イノベーション：戦略と未来ビジョン	中外製薬(株) 代表取締役社長 CEO 奥田修氏
特別講演	4月9日	6K-02	11:00～12:00	ジェネリック医薬品の産業構造のあり方について	日新製薬(株) 代表取締役社長/日本ジェネリック製薬協会 会長 川俣知己氏
特別講演	4月9日	6K-03	13:00～14:00	日本の皆保険制度と医薬品産業	日本製薬団体連合会 理事長 宮島俊彦氏
特別講演	4月9日	6K-05	14:30～16:00	日本医薬品原薬工業会 会員企業による工場長・経営者会議	【モデレーター】白鳥製薬(株) 代表取締役 社長 白鳥悟嗣氏 【パネリスト】福寿製薬(株) 製造部 部長 柳瀬久儀氏/富田製薬(株) 生産本部本社工場生産部 部長 幸泉智英氏/(株)常磐植物化学研究所 取締役 木村宜仁氏/金剛化学(株) 製造部 部長 深田和彦氏
					【モデレーター】キャンサー・ソリューションズ(株) 代表取締役社長 桜井なおみ氏 【ゲストスピーカー】製薬企業3社, 患者関連団体
特別講演	4月10日	6K-08	11:30～13:00	製薬3社によるペイシエント・エンゲージメント (患者さんとの協働) の取り組みについて	(一社) 日本薬業貿易協会 (詳細は調整中)
特別講演	4月10日	6K-09	13:30～15:30	日薬貿シンポジウム「原薬の安定供給を促進するために求められること」	
特別講演	4月10日	6K-10	15:45～16:30	世界のバイオ医薬品を形成する2024年の研究開発における最新トレンド	Citeline (a Norstell company) Insights Editor-In-Chief, APAC Mr. Ian Haydock
特別講演	4月11日	6K-14	13:00～14:30	「ジェネリック医薬品の品質・安定供給確保の維持継続に向けて」原薬分科会5つの提言 2.0	(座長) 日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会 代表理事兼原薬分科会長 武藤正樹氏 (共同座長) 日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会 分科会長代理 義若博人氏 (パネリスト) 【未定】
特別講演	4月11日	6K-15	15:00～15:45	時代の転換期を迎えて：CRO 業界の挑戦と展望	日本 CRO 協会 会長/シミックホールディングス(株) Consulting and Navigation Unit 藤枝徹氏
特別講演	4月11日	6K-16	16:00～16:45	医薬品の製造管理・品質管理の徹底に向けた行政の取組みについて	厚生労働省 医薬局 監視指導・麻薬対策課 監視指導室長・麻薬対策企画官 山本剛氏

イタリア・パピリオンに加え、インド・パピリオンが復活したほか、新たにラトビア・パピリオン、ASEAN パピリオンが設けられている。優れた化学品などの生産地として知られる東欧のラトビア、経済成長に伴い、医薬品市場も急成長が予想される ASEAN 諸国。これらの国・地域に関心を持つ企業にとっては必見の場となりそうだ。

先端分野の講演やセミナーが増加

企業・団体などとのコミュニケーションや商談の場ともなる展示ゾーンに加え、CPHIでもう一方の催しとなっているカンファレンスやセミナー。今回は過去最多となる約 250 の開催が予定されている。

注目の基調講演では、中外製薬株式会社の代表取締役 CEO である奥田修氏が「中外製薬の創薬・生産イノベーション：戦略と未来ビジョン」のテーマで講

演。バイオ医薬品開発などで市場をけん引する製薬企業の考え方や戦略を知る絶好の機会といえよう。

昨年、オリゴヌクレオチドや mRNA などの分野の専門家が終結し開催されている国際カンファレンス「TIDES(タイズ)」との連携企画が今回も開催される。注目されるのは、米国の先端バイオ企業であるアルナイラム社の幹部がライブでカンファレンスに参加。先端の核酸医薬品などの現状を知る絶好の機会となる。サステイナビリティの一環として開催を続けている CPHI Women も、オープニングセッションやグループディスカッションで、製薬・ヘルスケア業界で働く女性を応援、ネットワークづくりに貢献できる機会を提供している。

併設展示会でも注目テーマが

近年、AI など急速に IT 技術が進展、医

薬品の開発から製造、販売までその応用が期待される現在、CPHI の同時開催展「ファーマ IT & デジタルヘルス エキスポ」も注目される。グーグル、マイクロソフト、IBM 社など IT 業界のリーディングカンパニーが多数登壇、必見のプログラムが満載。医療機器の設計・製造に関する展示会・セミナー「Medtec Japan 2025」も、医薬品と緊密につながる医療機器などの現状や将来を考える絶好の機会を提供している。

CPHI Japan 2025 は、同時開催展を含め、これまでにない規模で開催。国境を越えたビジネスの広がりに対応する企業の課題に対して、様々な角度から最適解を見つけ出す機会を提供する展示会として、その存在感をさらにますます工夫がなされている。

© 2025 The Chemical Society of Japan